

令和8年3月3日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立津久戸幼稚園
所在地	新宿区津久戸町2-2

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色と形

<テーマの設定理由>

- ・遊びの中でいろいろな材料を使い、作ることを楽しんでいる。また、積み木を組み合わせる遊びに必要な場を作ったり、四角くなるように考えて片付けをしたりしている。子どもたちが作る活動を通して、どのように色や形に出会い、試したり、考えたりしながら、遊びを進めているのかを知り、必要な援助や環境構成を探って行きたいと考えた。
- ・小学校と合同の展覧会に向けて、いろいろな材料や道具に触れ、作ったり描いたりすることを楽しむ中で、様々な色や形に出会ってほしいと考えた。

2. 活動スケジュール

- 7月～ 色水遊び
- 9月 紙コップを使って遊ぼう（講師招聘）
- 12月 こどもかいに向けて
- 2月 展覧会に向けて（講師招聘）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【色水遊び】

- ・絵の具、クレープ紙、食紅、透明カップや透明容器、じょうご、洗剤スプーンなど
- ・絵の具を片付けるとき、いろいろな色が混ざることに関心、試す姿があったので、クレープ紙や食紅なども用意し、自由に関われるように場を設定した。

【紙コップを使って遊ぼう】

- ・紙コップ
- ・紙コップを 2500 個用意し、講師の指導の下、並べたり、積んだり、重ねたり、自由に組み合わせて遊んだ。

【こどもかいに向けて】

- ・画用紙、不織布、カラービニール、段ボール、ワイヤー、絵の具、サインペン、クレヨン、ボンド、のり、ステープラ、セロハンテープ、ガムテープ、ビニールテープなど
- ・各学年の実態、発達に合わせて、材料や道具を用意し、表現活動に必要な身に付けるものや大道具を作った。

【展覧会に向けて】

- ・画用紙、不織布、カラービニール、京花紙、段ボール、新聞紙、テグス、梱包材、絵の具、サインペン、クレヨン、ボンド、のり、両面テープなど
- ・各学年で、いろいろな材料や道具を使い、描いたり、作ったりしたものをごっこ遊びに使用したり、小学校と合同の展覧会で展示したりした。展示の場の一部に9月にご指導いただいた紙コップの造形を取り入れた。

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

【いろいろな色との出会い（3歳児）】

- ・9月：運動会のリズム表現に使う魚のお面を赤、青、黄の絵の具で描く。思い思いに描くうちに色を混ぜることが楽しくなり、絵の具を繰り返し混ぜる。どの色を混ぜると何色になるか気付き、作りたい色を作るようになる。翌日、白を欲しがらる幼児がいたので、保育者は白の絵の具を準備する。白の画用紙には白の絵の具では描けないことに気付いた幼児は、色の画用紙を保育者に要求する。昨日使用したの3色の絵の具と白の絵の具を混ぜると、新たな色ができることを喜び、繰り返し遊ぶ。片付けの際は、水で容器や筆を洗いながら、ジュースに見立てる。
- ・11月：「あおくときいろちゃん」の絵本を読み、青と黄色の食紅で色付けた色水で色水遊びをする。いろいろな濃さの緑を作り、並べ、眺める。翌日、新たに赤の食紅で色付けた色水を用意すると、混ぜてできる色を予想したり、できた色水を日に透かして眺めたりする。
- ・12月：こどもかいの大道具で岩が必要になり、みんなで作ることになる。「岩の色をどうやって作ろう」という保育者の問いに「黒」と言う幼児、「黒ではない」と言う幼児がいる。黒ではないという幼児に聞くと、「黒より薄い」と答える。保育者が「何かほかの色が混ざっているのかな」と聞くと、「ピンク」「水色」「黄色」といろいろな色が出てきたので、翌日すべての色を用意しておく。黒と子どもたちが出した色を混ぜて塗ってみると、グレーになり、「岩の色になった」と子どもたちから興奮気味な声上がる。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- ・「水を入れてみよう」「紫になるかな」など、いろいろな色を混ぜたり、混ぜる色の量を変えたりしながら、自分なりに試す。
- ・「いろいろな緑ができたね」「こんな色になった」と自分の作った色や偶然できた色を保育者や友達に見せて喜ぶ。
- ・赤と黄色の色水を混ぜたものを日に透かし、「夕焼けだよ」と夕焼けに見立て、友達と眺める。
- ・絵の具で使った筆やカップを洗いながら、「イチゴジュースです」「コーヒーができた」と飲み物に見立てる。
- ・幼児の気付きを大切に、保育者と幼児の問いかけと応答を繰り返しながら、必要な材料や道具を用意する。
- ・じっくり試せる時間や場、十分な材料を用意し、一人ひとりの気付きや発見、思いに共感し、周りに知らせていく。

<活動の様子>



5. 振り返り

- ・「やってみたい」という思いが実現できると、「もっとやってみたい」「こうしてみたい」と興味・関心がさらに広がり、探究心や思考力につながっていくと感じた。一人ひとりの「やってみたい」という思いを実現できる環境構成と援助を引き続き考えていきたい。
- ・「グレーは、白と黒を混ぜて作る」という固定概念をなくし、幼児の考えを尊重して活動を進めたことで、保育者も本当にグレーができるのだろうかワクワクしながら活動を楽しむことができた。保育者自身が活動を楽しむことが大切だと改めて感じた。
- ・幼児は今まで経験したことから予想を立てている。経験の積み重ねが次の気付きにつながっていくのだと思った。

以上